

第4学年 社会科 学習指導案

菊池市立七城小学校

教諭 作野 華奈子

1 単元名 「谷に囲まれた台地に水を引く (東京書籍 新しい社会4 P114～131)」

2 単元の目標

- ・通潤橋を作った先人の働きに関心を持ち、通潤橋とその周りの地形を観察して、その特徴について理解することができる。(知識・技能)
- ・山都町や熊本県の人々が、どのようにして通潤橋を残していこうとしているのか、その思いや願いについて考え、表現することができる。(思考・判断・表現)
- ・白糸大地の地形の特徴をもとに、そこに住んでいた人々の願いを考え、学習課題を設定し、学習計画を立てるなど、主体的に問題を追求し、解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

この「谷に囲まれた台地に水を引く」の単元は、地域の発展に尽くした先人が、様々な苦心や努力により、当時の生活向上に貢献したことを学ぶことのできる学習単元となる。通潤橋は約170年前に、熊本藩矢部地方に作られた石の水道橋である。白糸大地は周りを川に囲まれながらも、谷が深いため、いつも水不足に悩まされていた。この苦しさを救うために惣領屋であった布田保之助が石工や農民たちと力を合わせ、苦勞を重ねながら橋を完成させた。石の橋という珍しさだけでなく、その地域に住む人の思いや願い、そして、橋が完成するまでの布田保之助や石工たちの工夫や努力を感じることで教材になっている。

また、学習する児童にとっては、自分たちが住む熊本県の橋ということで身近に感じられるものであるし、実際に山都町にある通潤橋や資料館を見学し、実物を見ることによって、学習意欲を高めることができる。現地のボランティアガイドの方の話を聞きながら、生活を改善するために尽くした先人の偉業を学ぶことができる身近な教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく、元気でやる気のある児童が多い。様々なことに興味・関心を持ち、見学旅行を楽しみにしていた。これまで「県の広がり」の単元において、地形や交通・産業など、熊本県のことについても大まかなことは学習している。しかし、詳しい地形については学んでいないので、山都町がどこにあるか、周りがどのような地形になっているか等については初めて知る児童がほとんどとなる。都道府県や地形について、覚えたりすることに苦手意識をもっている児童も多いので、実際の写真や資料を提示しながら、教え込みの授業にならないように工夫したい。

また、夏休み前まで「水はどこから」の学習をしているので、熊本県の水のきれいさや貴重さ、水の循環については理解を深めている。その理解を生かしながら、生活にとって必要不可欠な水を

得るため、当時の人々の願いや努力を感じながら、学習をすすめていきたい。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、通潤橋が国宝に指定されるという新聞記事やニュースを提示し、その時の反応から子ども達の関心を高める。まさにタイムリーな出来事なので、貴重価値もあり、関心を高める良い話題としたい。そして、通潤橋やその周りの様子の写真や動画を見せながら、なぜ、国宝に認められたのか、何がすごいのか等考えさせたい。その後、教科書や資料を読みながら、通潤橋が作られるまでの様子や苦労等を学ばせていく。

それらの学習を経た後に、見学旅行を予定する。円形分水で水の流れる様子を見たり、実際に通潤橋の上から周りの地形を確認したり、水が流れる様子を見たりすることによって、教科書での知識を実際の体験と結びつかせて学びを深める。また、ボランティアガイドの方の話聞くことにより、熊本地震での実際の様子を知り、修復や復興に携わる人々の強い思いや願いに触れることをねらいとする。その体験を基に、熊本に住む自分たちも誇りと愛着心をもって通潤橋を守り、後世へ残していこうとする気持ちの育成を目指す。

更に、通潤橋のみならず、自分たちの住む地域（熊本県や菊池市）にある他の史跡や設備にも目を向けたり調べたりする中で、地域の人たちの生活を良くしたいという思いや地域のために良いものを残したいという人々の共通の思い、それらのものを残そうとする人々の努力にも目を向けていきたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性・・・昔の先人たちの努力や工夫によって、今の私たちの便利な生活があるということ。

有限性・・・私たちが普段何気なく使っている水には限りがあり、この水のある生活が当たり前ではないということ。

連携性・・・暮らしをよくするために様々な人が協力し、力を合わせることによって、大きなことを成し遂げることができるということ。

責任性・・・何かを成し遂げるためにも、水を大事にしていくためにも、私たち一人ひとりが責任をもって行動することが大切であるということ。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

○批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

通潤橋はただ古いから残っているのではなく、先人たちの技術と努力や工夫が受け継がれてきたからこそ、ここまで有名になったのだと気付く力。

○未来像を予想して計画を立てる力

国宝に指定された通潤橋を、今後私たちがどのように残していくのか考える力。

○多面的・総合的に考える力

通潤橋ができたことによって、周りの人たちの生活がどのように変わったのか考える力。

○進んで参加する力

実際見学に行った時に、教科書等で学んだことを思い出しながら学ぼうとする力。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

○世代間の公正を意識できる

先人がとても苦勞して作った通潤橋を、自分たちが未来に残していかなければならない。

○自然環境、生態系の保全を重視する（生態系多様の重視）

自然との共存を考えながら、新しいものを作っていかなければならない。

○人権・文化を大切にする（文化多様性の尊重）

国の重要文化財であり、国宝にもなる通潤橋を大切にし、良さを伝えながら広めていかなければならない。

・ 達成が期待されるSDGs

- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 9 産業と技術革新をつくろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任

4 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 当時の世の中の課題や人々の願いを知り、橋を作るまでの苦勞や工夫、橋ができてからの生活の変化を理解している。</p> <p>② 通潤橋とその周りの地形を観察したり調べたりして、その特徴について理解している。</p>	<p>① 山都町や熊本県の人々が、どのようにして通潤橋を残していこうとしているのか、その思いや願いについて知り、それに対する自分の思いを表現している。</p> <p>② 経験したことや学んだことをノートやシート等に工夫して表現している。</p>	<p>① 白糸大地の地形の特徴をもとに、そこに住んでいた人々の願いを考えようとしている。</p> <p>② 学習課題や学習計画を立て、主体的に問題を追求し、解決しようとしている。</p>

5 単元の指導計画（全14時間）

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 通潤橋の新聞記事や写真・動画を見て、知っていることや気付いたことを出し合い、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースや新聞で見た。 ・石の橋から水が出ている。 <p>2 白糸大地の地形や、そこに住んでいた人たちの願いを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りが谷になっている。 ・生活に水がないと不便だろう。 	<p>○新聞や動画等、視覚で示し、興味関心をひく。</p> <p>○約170年も残される理由から問題提起し、学習意欲につなげる。</p> <p>○地図帳で通潤橋や白糸大地の位置や地形を確認する。</p>	<p>ウ①・② (主体的)</p> <p>ア② (知・技)</p>
<p>3 白糸大地に水を引いた方法や、丈夫な橋を作るための工夫を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋の管に水を通して水を流そうとしたアイデアがすごい。 ・石の管や橋の形が工夫されている。 ・皆で協力したから、すごいアイデアが出たり、難しいものを作り上げたりすることができた。 <p>4 通潤橋ができた後のくらしの変化を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通潤橋ができて、米作りがさかんになり、田んぼも広がっている。 ・地域の人はとても助かっただろう。 <p>5 熊本地震の後の通潤橋について知り、今後自分たちにできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震で、通潤橋もひびわれている。 ・現代の修理で昔の漆喰が使われるなど、布田保之助の作ったものが、後世にうけつがれている。 ・自分たちも地域の史跡などを大切に残していかなければならない。 	<p>○教科書と併用して「わたしたちの熊本」を読みながら、知識を深める。</p> <p>○水の流し方や橋の作り方など、実演できるものがあれば、実際に実演して理解を深める。</p> <p>○あわせて見学旅行も行い、実際に通潤橋を見たり登ったりして、経験として心に刻む。教科書に載っていないことも通潤橋資料館で調べる。</p> <p>○ボランティアガイドの方から直接話を聞いたり質問したりして、より深く知る。</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>ア① (知・技)</p> <p>イ① (思・判・表)</p>

<p>6 この学習を通して学んだことや考えたこと、見学旅行で体験したことをグループでまとめ、発表会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は、実際に通潤橋に登ったり、放水を見たりしたことが心に残った。 ・布田保之助や石工たちの努力と工夫を、まとめて発表したい。 	<p>○グループを作ることにより、書いたりまとめたりすることが苦手な児童もお互い助け合いながら、活動に参加できるようサポートする。</p> <p>○お互いの発表を良いところを考えながら聞き合うよう声掛けする。</p>	<p>イ② (思・判・表)</p> <p>ウ② (主体的)</p>
--	--	---